

2022年(令和4年)9月21日(水曜日)



カトーレック 「ロジトロニクス企業」へ 「グローバルEMSセンター」増設

カトーレックは、エレクトロニクス事業とロジスティクス事業を融合した「ロジトロニクス企業」を目指して、「グローバルEMSセンター」の増設、ベトナム・ハノイの物流会社資本参加など、グローバル化を加速している。



加藤 社長

同社は、エレクトロニクス事業としてEMS（電子機器製造受託サービス）と、陸運業を主とするロジスティクス事業を展開しており、EMS事業が全体売り上げの約70%を占めている。

EMSの製造拠点を国内（高松・本社工場、松山）、中国（蘇州、広州）、ベトナム、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、メキシコ（ティファナ、グアナファト）、インド（フナー、合弁）に設けている。生産増強を進

め、インドネシア工場第4棟が2020年4月、ベトナム工場第2棟が同6月に、フィリピン工場第3棟が21年5月に完工した。インドについても生産増強を検討している。各工場は、多品種少量生産に対応するフレキシブルな生産体制と、世界いずれの工場でも生産しても同一品質、同一サービスを提供するグローバルプラットフォームに位置付けている。

受託する製品は家電、AV、車載、情報通信、住宅設備機器、産業機器、医療機器、航空・宇宙機器まで幅広い。加藤英輔社長は「物流と製造はモノ（材料）を工場に運んで、工場で作る一貫した流れにある。EMSは基板実装を中心に日系企業の受託が多いが、中国、米国、インドなどの企業からの受託も増加している。ODM（相手先ブランドによる設計・製造）の案件や、ユニットの組み立て案件が増えており、体制を強化している。工場のスマート化に取り組み、ASEANのいずれかの工場をモデル化して横展開する。スマート化のため設備投資も進める」と述べる。

営業、購買機能の「グローバルEMSセンター」を高松（高松市）に設けているが、新たに第2オフィス（同）と大阪オフィス（大阪府吹田市）を設けた。ロジスティクス事業はタイ、香港、ベトナムに拠点を設けている。ベトナム・ハノイの物流会社であるDelta Internationalの株式を36%取得した。同社は19年1月に「KATOLOGIGLOBAL VIENTIANE」（KAVIGL）を設立。物流センターでの出入庫・保管・流通加工・輸送など一貫したサービスを提供し、顧客をサポートしている。一方、Delta社は、ベトナム国内のトラック輸送業を主力として、通関業や倉庫業、フォワーディング業と幅広い事業を行っている。高い輸送品質により、日系を含む外資系企業から高い評価を受けている。

KAVIGLでの倉庫業に加え、Delta社のベトナム北部から南部までのネットワークや、幅広いサービスを組み合わせることで、顧客をトータルにサポートし、既存拠点である日本・タイ・香港・ベトナム間、またはベトナムを起点とした他の地域を結ぶグローバルネットワークを構築し、国際一貫物流サービスを拡充する。